

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉県2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)さわやか草加館 新築工事	階数	地上3F
建設地	埼玉県草加市	構造	S造
用途地域	第1・2種住居、法22条地域	平均居住人員	70人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2018年5月31日
敷地面積	1,759 m ²	作成者	大和ハウス工業(株) 岩崎誠
建築面積	754 m ²	確認日	2018年5月31日
延床面積	2,172 m ²	確認者	大和ハウス工業(株) 岩崎誠



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 91%
③上記+②以外の 91%
④上記+ 91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	高齢者が入居する建築であるため、バリアフリー条例及び福祉のまちづくり条例に基づいた計画としている。また草加市景観条例に準拠すると共に、淡い色彩を基調としている。	
その他		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
昼光率を高め設定し、光・視環境に配慮している。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。	電気設備は非常用発電機を採用、情報通信設備については通信設備の多様化、また、補修必要間隔の長い配管材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮している。	視線を遮らない様な樹木の配置、メッシュフェンスの設置など防犯性に配慮している。空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	節水型便器や自動水栓などの省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。発泡断熱材はノンフロン製品を採用し、汚染物質含有材料の使用を回避している。	広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS (仮称)さわやか草加館 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.40		-	2.8
1 音環境						2.6	0.15	3.0	1.00	2.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						3.2	0.40	3.1	0.40	
1 開口部遮音性能		サッシ遮音性能T-3採用				5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						2.0	0.60	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		住)居室19:Lr値=50				-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音						1.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境						2.3	0.35	2.0	1.00	2.1
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式						2.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境						3.0	0.25	3.1	1.00	3.1
3.1 昼光利用						4.2	0.30	3.6	0.30	
1 昼光率		待)健康管理室:2.75%、住)居室19:1.219%確保				5.0	0.60	4.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御						2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に使用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						2.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量		住)居室:2.52倍				3.0	0.50	5.0	0.33	
2 自然換気性能						-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.0
1 機能性						2.5	0.40	3.8	1.00	3.1
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		住)全て個室で10m ² /床以上確保				-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い壁・床材採用、水切設置、外部金属はメッキ処理				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:ポリエチレン(B)、雑排水:塩ビ(B)、給湯:SUS(C)、上位2種にC以上				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		グリーン購入法対応衛生器具、排水系統区分の細分化、受水槽に蛇口設置				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.6	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30	2.2	0.50	
1	階高のゆとり		1.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	診)壁長さ比率:0.28、(待)壁長さ比率0.26、(住)壁長さ比率0.24	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	天井内転し配線、PF管配線採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井内転し配線、PF管配線採用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	屋上部に設備機器の予備が置けるスペース有り	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		建物の断熱を適切に配し外部からの熱負荷に配慮	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.89	2.5	0.50	-	-	2.5
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓や節水型便器を過半に採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		土間下断熱材:押出法ポリスチレンフォーム	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		内装が乾式工法、PS、二重天井内配線、保護管配線により内装材と設備が錯綜しない	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内に駐輪場、駐車場を配置(必要台数分)、管理車両スペース考	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストを一部満たす、広告物照明はない	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート












■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)さわやか草加館 新築工事	BEE	0.9	BEEランク	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.3	+	2.6	=	5.9	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
	 	  	   		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.3
<配慮した内容を記述>			
消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
視線を遮らない様な樹木の配置、メッシュフェンスの設置など防犯性に配慮している。空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。			

: 入力欄